



12月号

横浜市立中田小学校

学校だより

第511号



中 田 小

令和5年11月30日

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



「あたりまえ」を見直す

校長 中村 真弓

校庭のいちよの葉もようやく黄色く染まり始め、冬へと季節が移っていることを実感します。11月23日本校会場の三校ふれあいコンサートは、久しぶりに人数制限を行わずに実施できました。また25日の土曜参観では、急に真冬の寒さとなる中をたくさんの方に参観いただきました。また、中田小学校地域防災拠点の委員の皆様、中田消防署と消防団の皆様にご協力いただき、体験型防災教室も行うことができました。コロナウイルスの影響が出る前の形を思い出しながら、新しい工夫を加えての実施です。ご協力、ご参観いただいた皆様、ありがとうございました。

秋の行事がひと段落し、冬に向かっての取組として「なわとび大会」を12月5日に行います。土曜参観の日もそうでしたが、始業前、休み時間、下校前と、各クラスで協力して長なわとびをしている姿が見られます。長なわとびは、運動の楽しさを味わい、体力増進の一助となることをねらって行っています。また、学級の友だちと協力して取り組むことの素晴らしさを感じることもねらっています。

長なわとびの取組について、先日、学級会で話し合いをしているクラスがありました。そのクラスでは、長なわとびに対して不安な気持ちをもっている人も安心して練習に参加できるようにするためにはどういう練習の仕方がよいかについて話し合っていました。長なわとびに不安な気持ちがある人は、失敗したら嫌だな、うまくできなくて恥ずかしいな、練習があるから学校に行きたくないな、など複雑な気持ちだと思います。話し合うことの意味は、誰もが進んで練習できるようにすることにもあると思いますが、そういう不安な気持ちの人の思いに周囲の人が気づくことにもあると思います。話し合いを通して周りの友だちの考えや思いが分かることで、失敗するかもしれない不安を乗り越えて、このクラスだったらと安心して参加できるようになるのではないのでしょうか。

職員もなわとび大会の実施方法について話し合いました。学年で一番回数が多くとべたクラスを発表するけれども回数の多さにこだわるのではなく、クラスそれぞれに目標を決めてそれを達成できることをめざしましょう、という結論になりました。これまで回数多くとべることをよしとすることが「あたりまえ」だったかもしれませんが、様々な子どもの気持ちを大切に考えた結果です。「なわとび大会」を参観される皆様には、その点をご理解いただければ幸いです。

中田小は、12月を人権月間として様々な人権課題について学習します。ここを出発として日常生活の中で思いやりの心をもって互いの人権を大切にできる子どもたちになるよう、職員一同で取り組んでまいります。今後とも、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

永く子どもたちと共に中田小学校で暮らしていましたうさぎの「ミルク」が、11月10日に亡くなりました。子どもたちがお別れの気持ちを表せるように計画をしています。飼育ボランティアでお世話になった皆様、ありがとうございました。